

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門造形高等学校
1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
2 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成
3 美術・工芸・デザイン教育において、日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展を牽引

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 (1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。 ア 生徒全員が1人1台端末、ポートフォリオ等を活用し、系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。全HR教室の電子黒板、特別教室のプロジェクタを授業実践で活用することで不断の授業改善に努力し、授業の「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を向上させる。また、教育アプリ等を活用し家庭学習を習慣化させるとともに、すべての教科で学力向上を図る。 イ 造形教育における幅広い知識・実技力を身に付ける指導を充実させるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の充実を図る。 ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行う活動を通して、表現力や思考力を鍛え、作品だけではなく言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる。 エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員も指導力向上のために自己研鑽や研修参加に励み、魅力ある授業づくりに努める。 ※STEAM教育プログラムを踏まえ、実社会での問題発見・解決に活かしていくための教科横断的教育の実践に努める。関係機関と連携し、特にデザイン分野における課題解決型活動を実践し、「考える力」を育成する。 ※学教診において「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答（R3 90%、R4 88%、R5 91%）90%を維持する。 ※「発信力」の育成について、ICT機器を活用して、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えを発表し、お互いの考えを認め、尊重し合える場づくりをすべての授業（教科・科目）で設定する。学教診において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答（R3 90%、R4 91%、R5 98%）90%以上を維持する。
2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成 (1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間を育成する。 ア 美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。 イ 大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。また、芸術を通して自らが社会に発信できるような企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。さらに、地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。 ウ 将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒の個性や特性に応じた指導を組織的に行う。また、充実した高校生活が送れるよう教育相談体制の充実を図る。 エ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習がバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学5名程度を含む四年制大学進学者数100名程度を維持していく。 ※進路指導の指標として、学教診において「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答（R3 94%、R4 91%、R5 96%）「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答（R3 92%、R4 92%、R5 96%）、いずれも90%以上を維持していく。 ※造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また「高校展」「芸文祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持していく。令和8年度においても現在の水準（美術の大阪府代表）を維持していく。学教診において「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答（R3 91%、R4 91%、R5 93%）90%以上を維持する。 ※部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないよう、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブデー」を確実に実施する。
3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割 (1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として、全国の美術・工芸教育を牽引するセンター校としての役割を果たしていく。 ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、本府だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。 イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。 ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源（施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係）を有効に活用し、他校種研究団体とも連携して教員対象の研修会等を企画するなど、センター校として推進に努める。 エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。 ※校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。特に、海外の美術作品等を扱う企画展や大塚国際美術館等、国内で海外作品が鑑賞できる機会を増やし、世界の文化について考える機会をつくっていく。また、ICTを活用し、海外の学校と文化交流を図るなど専門造形高校ならではの活動について推進する。学教診において「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答（R3 99%、R4 99%、R5 99%）95%以上を維持する。また、「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答（R4 新設61% R5 86%）85%以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒回答】 ポイントが上がった項目は4つ。 ○「5先生は、学校生活の問題を見逃さずに対応してくれる。」	〈第1回〉6/19開催 【委員より】 ・学校経営について一貫性をもって実行していくことはすばらしい、との意見があった。

担任の丁寧な対応や教職員全体の密な情報共有の成果と判断できる。 ○「6 先生は、いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」学期ごとのアンケート実施や、日頃の生徒指導、教育相談に関する評価と判断したい。 ○「13 体育祭、文化祭などの学校行事は楽しく充実している。」熱中症対策などの実施方法が定着し安定してきた。 ○「17 学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」年2回の例年実施している避難訓練が、生徒の防災意識を高め、安心して学校生活が送れている。 一方、ポイントが下がった項目は2つ。 ○「8 授業の内容や目的によって I C T 機器を効果的に活用している。」I C T 機器の活用は、少しずつ定着しつつあるが、ほとんど活用していない教員もいることは事実である。次年度以降、公開授業週間の実施や I C T に関する職員研修の充実を図り、授業力向上に努めていきたい。 ○「19 地域（住之江区）や大学、芸術団体との連携の機会がある。」昨年度以上の頻度で連携活動が行われたと思われるが、多くの生徒がかかわっていないのでこのような結果になったと分析できる。より多くの生徒をかかわらせ、成果を実感できる機会をつくっていきたい。 今年度は、40 周年関連行事もあり、イベントや心に残る行事も多くあった。生徒の高校生活を有意義にし、意欲的にした結果としてこのような数字になったと分析される。 【保護者回答】 前年と比べアップが4項目、ダウンも4項目という結果。特に増減のあった項目を挙げた。 ○「2 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」4 % ↓。 ○「8 学校は、授業の内容や目的によって I C T 機器を効果的に活用している。」3 % ↓ ○「12 将来の進路や生き方について考える機会がある。」は5 % ↓ ○「16 地域（住之江区）や大学等との交流は盛んである。」6 % ↓ 7・8 については、授業力の向上、教職員の意識の向上に努めていきたい。12、16 については、これ以上機会を増やせないところまで自助努力をしているところなので、連絡網ツールや学校HP等を通じて、保護者への確実な周知方法をさらに工夫。 逆にアップした項目として、 ○「7 先生は、学校生活の問題を見逃さずに対応してくれる。」8 % ↑ ○「9 学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」3 % ↑ ○「17 学校は、海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流をしたりする機会がある。」4 % ↑ ○「19 この学校の授業参観や学校行事に参加したことがある。」3 % ↑が挙げられる。 7,9 については、教育相談の体制が認められていると確認できる結果となった。17、19 については、行事復活後、盛んになってきているイベント等をさらに発展充実させていきたいと考えている。 保護者への情報提供をより確実なものにするとともに、保護者ニーズに応えていく学校をめざし、さらに改善を進めていきたいと思う。 【教職員回答】 回答率 100%となり、肯定的な回答も断然多くなってきた。 教職員の結果と生徒・保護者の結果で逆転現象が起こっているもの。 ○「4 内容や目的に合わせて、ICT（情報機器等）を教育活動の中で活用している。」については、13%↑、生徒・保護者の回答は、生徒が3 % ↓、保護者が7 % ↓。授業見学で見ていると明らかに I C T 機器の活用率は上昇しているにもかかわらず、見方の違いによってこれだけの差が出る。 そして、「17 施設・設備について、日常的に点検や管理が行われている。」は、肯定率は上がったとはいえ、いちばん低い。40 年が過ぎ、施設・設備の劣化が進行していることは確かであるが、生徒・教職員の安全を確保するため、学期に1回の安全点検の実施や日常の点検管理を確認。また、府庁には早急に修理、改修をお願いしていきたい。	・『ようこそ先輩』の取組みについて質問があり、校長より人選について説明した。 ・学校経営計画について、発信力や表現力を育む教育をどのように展開していくかについて確認することができた。 ・海外交流について、生徒たちにとっては大きな刺激となるので、推進してほしい。また、多様性を学び自分を知る大切な体験であり、どのような交流が行われたのか伝わるようにまとめていただきたい。 ・文化祭のキャッシュレス化に期待している。 ・登校が難しい生徒に対してどのように対応しているのか質問があり、校長より、高等学校へ入学後の現状や、S C ・S S W など教育相談の充実、週1回の会議、学年などでの対応について説明した。 ・働き方改革の課題について質問があり、校長より、制度や改善策について説明した。 ・小中教員実技研修について、早い段階からの子どもたちへの美術教育の大切さを伝えるためにも、ぜひ継続して行っていただきたい。 ・メキシコ5校との国際交流の様子や本校が紹介されたテレビ放映の映像を上映するなど、本校の活動の様子の一部を映像で紹介した。 〈第2回〉12/3開催 【学校より】 ・本校教育活動の進捗状況について報告 40 周年記念行事、文化芸術鑑賞・体験推進事業（文化庁）、卒業生による講演「ようこそ先輩」、小中学校教員対象実技研修会、大学・専門学校による出前授業等、塩田千春 氏による講演、文化祭、P T A 社会見学会、2 年生修学旅行、学校説明会、公募コンクール等での受賞、海外研修（台湾）、授業力改善の取組み、その他各種イベントへの参加（ウインターカップ展）「DIESEL」とのコラボ企画、住之江区「子育てイベント」、すみのえアートビート）など ・各分掌および各学年より、今年度の取組みについて報告があった。 【委員より】 ・地域や社会と連携するなど社会との関わりを持ちながら教育活動に取り組むことは多くの生徒にとってとても良いことである。 ・中学校と比べて多くの生徒が遠方より通学している。生徒たちが将来きちんと社会生活を送ることができるよう指導することが大切。遅刻指導については個々の生徒に応じた指導を地道に継続する必要がある。 ・人権鑑賞学習について、今年度の取組みのように知識を学ぶことよりも印象に残る取組みを行うことが大切である。 ・3 年生の授業での「プレゼン大会」の取組みのように、相手に「伝える」という経験を積み重ねることが社会に出た時に役立つ。1・3 年生合同レクリエーションを開催したことについて、生徒たちは自分たちで考え行動すること、アクションを起こしてアイデアを実現させることを実体験として学ぶことができる良い取組みである。 ・「ようこそ先輩」の取組みについて、様々なキャリアステージにある卒業生を招いて体験談を聞くことは生徒にとって大きな財産となる。 ・住之江区役所・子育てイベントについて、小さな子どもに芸術に触れてもらう機会となりとても良い取組みである。 ・S N S の不適切使用が問題となっており、その危険性について生徒がより理解を深めることができるよう学ぶ機会を増やす必要がある。 ・文化祭や P T A 社会見学会、P T A 文化講座など保護者もアートの触れる機会が多くあり、子どもと同じ気持ちで保護者が学校行事に携わることができるのはとても貴重で良い。 ・生徒指導、遅刻指導について、遠方からの通学者や様々な課題を抱えた生徒が多いという学校特有の状況を鑑み、指導方法を検討するべきである。これからも継続的に検討したいと回答。 〈第3回〉3/3開催 【学校より】 ・ICT 機器の効果的な活用について ・人材育成、地域連携、大学・関係機関との連携について ・活動実績について ・令和7年度 学校経営計画について説明があった。 ・各分掌および各学年より、今年度の取組みについて報告があった。 【委員より】 ・時間外勤務の軽減など、教員の健康に留意しながら学校運営をすすめてもらいたい。 ・I C T 機器の活用について中学校での現状を踏まえ、1 人1 台端末の活用について助言があった。 ・受験生の公立高校離れが進む中、公立高校の魅力を発信するためにも、より一層、中高連携の強化を図るべきとの意見があった。 ・中学校における生徒指導上の課題について情報提供があった。 ・教育活動における ICT 活用は、よく吟味しながら導入する必要がある、特にプレゼンテーション能力の育成には従来のアナログ的な思考も重要である。 ・様々な課題を抱えた生徒がいる中、今年の3 年生は全員が卒業できるということはすばらしい。 ・学校教育自己診断アンケートの I C T 活用に関わる項目について、質問内容を検討し、より明確にすべきである。 ・発表の機会が増えたことで、生徒一人ひとりの自主性は高まっている。 ・海外研修旅行について、生徒たちに事前学習やグループワークに取り組ませることにより、学習効果が高まっている。 ・本校の魅力をもっとアピールするためにも、I C T 活用のみならずアナログ的な手法で発信していけるところも大事にして欲しい。 ・生徒たちが多くのコンペなどに参加、受賞していることは、自信や意欲の高揚につながり、自分自身を発信する力も身につくことが期待できるので素晴らしい。 ・広く学校のことを認知されるよう、もっと学校の魅力発信を強化する必要がある。
--	---

府立港南造形高等学校

	・学校教育自己診断について、さらに保護者の回答数上げることができるよう、アンケートの実施方法を検討して欲しい。 ・美術とICTのより効果的な融合をめざしてほしい。 ・志望者数減少について、いろいろな分野を体験しながら自分の極めたい分野を決定していけるという港南造形高等学校の魅力があまり知られていない状況があると思うので、中学生にもっと知ってもらえる機会をつくるべき。 ・生徒たちは港南展（卒業制作展）で先輩の作品を見て刺激を受け、その憧れから進路を決定することができていると感じる。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R5年度値]	自己評価
1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成	(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 ア 生徒全員が1人1台端末を有効に活用し、すべての教科で、学力の向上 イ 少人数展開授業やICTを活用した授業の充実 ウ 言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる エ 造形文化への理解・教員の自己研鑽	(1) ア すべての教科でICT機器を活用した授業を展開して授業への興味・関心を高め、生徒の理解度向上を図る。また、家庭学習を習慣化させるために学習アプリ等も活用して、学力の向上を図る。そのため、学力・授業力向上委員会を立ち上げ、生徒の学力向上のための方法を協議する。 イ 造形活動に必要な幅広い知識・実技力を身に付けるため、実技指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業を充実させる。そのため、学力・授業力向上委員会を立ち上げ、授業公開を促進し、教科の垣根を超えた授業実践研究の促進と教科横断的教育、課題解決型活動の実践を試みる。 ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行い、表現力や思考力を鍛える。言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる。 エ 美術館等と連携し、現代の作品、世界の作品、伝統工芸作品に触れる機会を増やし、美術・文化への理解を深める。 また、教員の自己研鑽の機会を増やし、魅力ある授業づくりに努める。	(1) ア・学教診における「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答90%以上を維持する。[91%] ・1年生で実施する外部テストの結果について、第1回に比べ第2回の到達ゾーンを下げないようにする。[国数英計] ・学力・授業力向上委員会の立ち上げ。 イ・学教診における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[94%] ・「授業の内容や目的によってICT機器を効果的に活用している。」の肯定的回答90%以上を維持する。[98%] ウ・学教診における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答90%以上を維持する。[98%] エ・国内外の作品に触れる機会の設定回数を昨年並みに維持する。[8回] ・小中学校対象教員実技研修、PTA・後援会対象文化講座の実施(指導技術の向上)	(1) ア・学教診における「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答89%となり、概ね達成できているが、ICT機器の効果的な活用に関して、ポイントを下げている。ただ、授業見学の様子では少しずつ活用率が上がってきている。(△) ・1年生で実施する外部テストの結果について、第2回はかろうじて維持できていた。[国数英計C2→C2](○) ・学力・授業力向上委員会は立ち上げず、次年度以降、公開授業週間の実施やICTに関する職員研修の充実を図り、授業力向上に努めていきたい。(△) イ・学教診における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答93%あり、現状を維持できたと判断している。(○) ・「授業の内容や目的によってICT機器を効果的に活用している。」の肯定的回答93%。90%は維持できたものの昨年度98%は大きく下回った。 ・ICT機器の活用率は上昇しているにもかかわらず、判断する人によってこれだけの差が出てくることは非常に残念である。(○) ウ・学教診における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答97%と昨年度並みの評価であった。発表機会も積極的に授業の中でつくり、相互評価させる場面も観察できた。(○) ・7/30日経STEAMデジタルアート展示発表会に2チームが出場し、プレゼン発表を行った。 ・3年課題研究プレゼン発表大会(1/22 3.4限) エ・国内外の作品に触れる機会は、美学美術史演習の授業で7回、芸術鑑賞で1回、海外研修で2回、計10回設定した。また、卒業生「塩田千春」の個展には多くの生徒が来館している。(○) ・小中学校対象教員実技研修(8/22 実施43名参加)、PTA文化講座(11/30)後援会文化講座(7/28)を実施し、教員の指導技術の向上に努めた。(○)

府立港南造形高等学校

2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成	(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成 ア 卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実	(1) ア・美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。 ・キャリア教育に関する講演会等を実施する。	(1) ア・学教診における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[96%] ・「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答 85%以上を維持する。[85%] ・すみのえアートビートへの参加。 ・卒業生による講演会『ようこそ先輩』の実施。 ・大学等による出前授業の実施。 ・画材業者による材料に関する講座の実施。	(1) ア・学教診における「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答 96%を維持した。(○) ・「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」の肯定的回答 82%に下がったが、連携事業は昨年度を上回っている。生徒への情報提供が足りなかったと反省している。(○) ・すみのえアートビートへの参加(11/10)大盛況 (○) ・卒業生による講演会『ようこそ先輩』の実施(7/11) ・大学等による出前授業の実施 (5/14. 28. 6/11. 22. 25. 9/3. 4. 11. 18. 11/13. 19. 20. 21. 12/8. 22) (○) ・画材業者による材料に関する講座の実施(11/12) ・DIESEL とのコラボ企画(10 月下旬) ・水上警察との連携 (闇バイト) ・厚生局との連携 (薬物乱用防止)
	イ 地域連携の促進と芸術の発信 人権感覚の醸成 防災教育の推進	イ・大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。芸術を通して自らが社会に企画、発信できる力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。 ・ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にする心や社会のルールを守る態度、人権意識を養い、社会の一員としての自覚に基づいた主体的な行動ができる人間を育てる。 ・地域の防災拠点として、備蓄品の定期点検や合同防災訓練などを実施し、地域とともに防災教育を推進する。	イ・学教診における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[96%] ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[94%] ・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」の肯定的回答 85%以上を維持する。[88%]	イ・学教診における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答 94%を維持した。(○) ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答 94%を維持した。(○) ・「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」の肯定的回答 94%と向上した。2 回の避難訓練での実地体験が生かされている。(○) ・住吉祭りへの参加協力(7/31) ・野鳥園 (落書き防止の壁画制作) ・大和川再生 (関西万博に向けての壁画制作) ・住之江区子育て応援イベントへの参加
	ウ 高校生活をより充実させるための目標設定と支援。教育相談体制の充実	ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒の個性や特性に応じた指導を組織的に行う。また、充実した高校生活が送れるようきめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。	ウ・学教診における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[96%] ・「担任の先生以外にも保健室やカウンセリング室等で、相談することができる先生がいる」の肯定的回答 80%以上を維持する。[84%]	ウ・SC、SSWの相談日を予算計上して増やしている。支援チームを中心に情報共有に努め、生徒の悩みや相談に学校全体で対応している。 ・学教診における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答 96%を維持した。(○) ・「担任の先生以外にも保健室やカウンセリング室等で、相談することができる先生がいる」の肯定的回答 86%であった。(◎)
	エ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施 「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持 働き方改革に関する取組み	エ・国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。 ・「高校展」や「芸文祭」等の高校生対象の公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。 ・部活動指導や補習による、生徒・教員の過度の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブデー」を確実に実施する。できていなかった「生徒アンケートの電子化」「保護者への文書配付のデジタル化」について効果を下げないよう推進する。	エ・学教診における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[93%] ・「定時退庁日」を木曜日に「ノークラブデー」を木曜・日曜日に確実に実施する。 ・保護者向けアンケートや配付文書の電子化 50%以上	エ・あらゆる機会をつくり、生徒の発表の場を提供し、全国発信できた。(○) 全高総文祭岐阜大会美術工芸部門大阪代表 9/14 点、近高総文祭福井大会美術工芸部門大阪代表 5 / 7 点。全日本高校デザインイラスト展イラスト部門で文部科学大臣賞、大阪成蹊大学主催のデザインコンペで文部科学大臣賞、大阪府知事賞、金賞 1 銀賞 3 銅賞 2 獲得、大阪芸大主催のコンペでは銅賞 1、部門別最優秀賞 1、特別賞 2 を獲得。民間との連携では、ジャパールのデザインコンペに参加 1 名受賞。全国高校生「地域の自然」甲子園 (ネイチャー甲子園) 動画クリエイト部門・2 年連続決勝進出・準グランプリ。全国はなが甲子園出場決定(1/22 出場は 3 月中旬) ・学教診における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答 94%であった。(○) ・「定時退庁日」を木曜日に「ノークラブデー」を木曜・日曜日に確実に実施した。一定の成果は見られたが、昨年と同じく産業医面談受診者が数名いた。(△) ・保護者向けアンケートや配付文書を無くし、「学習支援クラウドサービス」で配信した。配付文書の電子化はほぼ 90%達成できた。(◎)

府立港南造形高等学校

3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割	(1) 府立学校の専門造形高校、日本一の専門造形高校として果たす役割	(1)	(1)	(1)
	ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす	ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。 「大阪府高等学校美術・工芸教育研究会会長校（全国副会長）」として、大阪府全体の「高校展」「芸文祭」で中心的役割を果たすとともに、「港南展」をはじめとした独自行事、取り組みのより一層の発展を図る。	ア・学教診における「この学校には、他の学校にない特色がある。」肯定的回答 99％以上を維持する。[99%] ・令和8年度全国高等学校美術・工芸教育研究大会大阪大会に向けた準備委員会を5回以上開催する。	ア・学教診における「この学校には、他の学校にない特色がある。」肯定的回答 100％を維持できた。[99%]（○） ・令和8年度全国高等学校美術・工芸教育研究大会大阪大会に向けた準備委員会を2回し、会場見学やテーマの決定を行った。（△）
	イ 日本一の専門造形高校にふさわしい情報発信と施設設備の充実	イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門造形高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。	イ・学教診における「学校の施設や設備については満足している。」の肯定的回答 90％以上を維持する。[90%]	イ・学教診における「学校の施設や設備については満足している。」の肯定的回答 90％を維持できた。[90%]（○）
	ウ 美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進	ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進。	ウ・小中学校教員対象実技研修を実施する。 ・全国美術系大学短大合同説明会を府全体に呼びかけ、実施する。 ・高校展分散開催の会場として本校体育館を活用する。	ウ・小中学校教員対象実技研修を8/22に実施し、多くの皆さまに好評を得た。43名の参加（○） ・全国美術系大学短大合同説明会を6/15に実施し、31大学の参加と200名弱の生徒の参加があった。（○） ・高校展会場として多くの方(1436名)に鑑賞していただいた。（○）
	エ 造形作品に触れる機会の提供と国際交流	エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくるとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。	エ・学教診における「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答 85％以上を維持する。[86%] ・海外研修を実施する。	エ・学教診における「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答 88％と維持できた。[86%]（○） ・台湾海外研修を実施し、姉妹校である台中第一高級中学校と現地校で交流した。（○） ・40周年記念展を実施し、多くの在校生に刺激を与えた。